

# DL2100B

DL2110B, DL2120B, DL2130, DL2130B, DL2140Bは、横河電機社の商標です。

品番	GP・IBボード	価格	動作環境
W32-DL2100B-R	ラトックシステム社	65,000円 (消費税は含まれておりません。)	Win98SE/Me Win2000/XP Excel2000 Excel2002/2003
W32-DL2100B-C	コンテック社		
W32-DL2100B-N	NI社		
使用できる機種		DL2110B, DL2120B, DL2130, DL2130B, DL2140B	

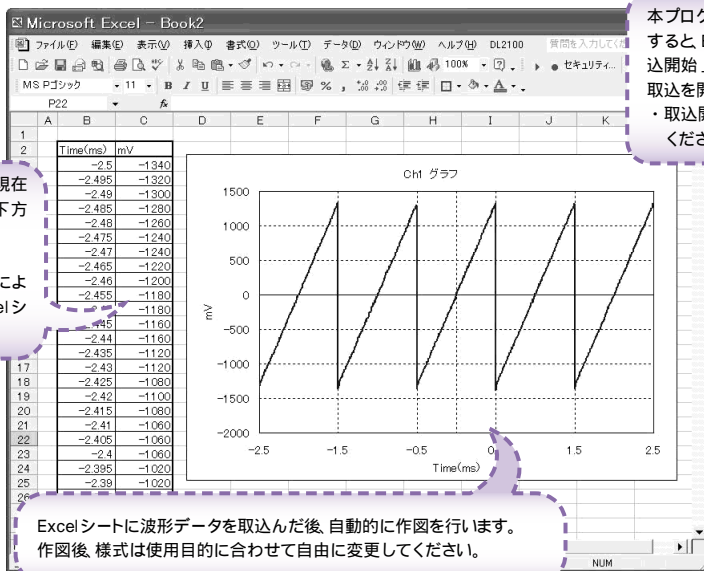
## 機能



波形データを電圧値として、Excelシートに取込みます。  
 取り込み可能なデータは、CH-1, CH-2, CH-3, CH-4, PROG-1, PROG-2です。  
 取込める最大データ数は、32Kデータまでですが、間引き機能により  
 波形全体を取り込むことが可能です。例えば、128Kデータを、4個飛びで32Kデータとして取  
 り込みます。間引き方法は、MAX, MIN, AVERAGE等から選択できます。  
 波形を受信すると、自動的にチャンネル別に作図を行います。

## 概要

波形データは、Excelシートの現在のカーソル位置を先頭に上下方向に取込みます。  
 (右図参照)  
 カーソル位置を移動することにより、複数の波形を1つのExcelシートに取込みます。



本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。起動すると、Excelシート上に、このウィンドウが現われます。「取込開始」ボタンで波形データの取込みを開始します。取込を開始する前に、取込むチャンネル番号・取込開始データ位置・取込データ長さを設定しておいてください。

取込データ  
 Ch-1  P1  
 ch-2  P2  
 ch-3  
 Ch-4

取込範囲  
 トリガ位置より  
 前: \_\_\_\_\_ ms  
 後: \_\_\_\_\_ ms  
 VCursor, Markerにより範囲指定

現在のSampling: 10K sps  
 現在のTrg Delay: 0 ms  
 現在のRecord Len: 1 K  
 演算係数: N

間引き間隔: Auto SIMPL  
 グラフ作図

START END

## 操作説明

波形を取り込むチャンネルにチェック付けます。P1はPROG-1, P2はPROG2です。

測定器に設定されているサンプリング・レート (Sampling)と同じ値をここに設定します。

測定器に設定されているトリガディレイ (Delay)と同じ値をここに入力します。

測定器に現在設定されているレコード長さ (Record Length)をここに設定します。

取込んだデータを、間引きしてExcelに入力します。間引きすることにより、広範囲のデータをExcelに取り込めるようになります。例えば、128Kデータを間引き間隔4にすると32Kのデータとして取り込みます。「Non」は、間引き無しです。「Auto」は、指定した取込データ範囲が32Kデータ以内に収まるように、自動的に間引き間隔を設定します。その実際の間引き結果がこの欄に表示されます。間引き間隔の最大は、100です。このテキストボックスをダブルクリックすると「Auto」に戻ります。

間引き方法を指定します。「SIMPL」は、単純に間引き間隔毎のデータをExcelに取り込みます。「MAX」は、間引きデータ中の最大値をExcelに取り込みます。「MIN」は、間引きデータ中の最小値をExcelに取り込みます。「AVE」は、間引きデータ中の平均値をExcelに取り込みます。

測定器から波形の取込を開始します。

波形データを取込む開始位置をトリガポイントからの時間 (ms) で入力します。トリガポイントからはマイナスの値、後はプラスの値で入力します。入力が無い場合や不適当な値が入力された場合、自動的にパソコンが適切な値に変更します。外部トリガの時、単位が「個」になります。

波形データを取込む最終位置をトリガポイントからの時間 (ms) で入力します。トリガポイントからはマイナスの値、後はプラスの値で入力します。入力が無い場合や不適当な値が入力された場合、自動的にパソコンが適切な値に変更します。ただし、取込データ数が32,000個を超える場合は、開始位置から32,000個までとなります。1度に取込めるデータ数は、32,000個までです。「VCursor, Markerによる範囲指定」がチェックされている場合、ここに入力された時間は無視されます。

測定器の「Virtual Cursor」をONにして、その2つの縦カーソルで指定した範囲のデータを取り込むとき、チェックを付けます。「Marker」が表示されている場合は、2つのマーカー範囲のデータが取り込まれます。

Excelシート上のカーソルを上下/左右に移動し波形取込開始位置を決定します。「スタート」ボタンをクリックするとカーソル位置から下方へ波形データを取込みます。

次ページ参照

波形を取込後、自動的にチャンネル別に作図を行います。

注1) 1度に取込めるデータ数は、チャンネル当たり32Kデータまでです。それ以上のデータ数を取込むためには、「取込開始位置」を変更して、再度取込みます。但し、Excelの性質上、あまり多くのデータを取込みますと、データの表示動作が極端に遅くなりますから実用的ではありません。取込む1波形のデータ数は、10Kデータ以内に収めることをお勧めします。波形の取込速度は、Pentium1.7GHzのパソコンを使用した場合、下記がおおよその目安となります。  
 ・波形データ数 32Kデータの時、約10秒

注2) 大量のデータを取り込む場合、なるべく高性能のパソコンを使用してください。(Pentium200MHz, メモリ128MB以上)

## 演算係数

その他の条件

係数演算

	係数A	係数B	単位
<input checked="" type="checkbox"/> Ch1	1.0	0.0	User
<input type="checkbox"/> Ch2	1.0	0.0	User
<input type="checkbox"/> Ch3	1.0	0.0	User
<input type="checkbox"/> Ch4	1.0	0.0	User
<input type="checkbox"/> P1	1.0	0.0	User
<input type="checkbox"/> P2	1.0	0.0	User

スケールリング演算を行うチャンネルにチェックを付けます。  
チェックが無い場合、測定電圧値がExcelに入力されます。

係数 A/B により、受信したデータを下記の演算を行った後、Excelに取り込みます。  
Excelへの入力値 = (受信データ - B) \* A

「単位」は、必要なら入力してください。

測定器の GP・IB アドレスを設定します。

波形データの時間データを Excel に入力するときの時間単位を設定します。  
外部クロックによりサンプリングしたデータを入力するときは「外部」を設定してください。

外部クロックで取り込んだデータを受信するためには「外部」に設定します。

外部クロックでサンプリングしたデータを取り込む時、1クロックの係数を入力します。  
例えば、1度当たり100パルスのロータリーエンコーダのパルスでサンプリングした場合、「0.01」と入力しますと横軸が読みやすくなります。

横軸を内部クロックの時間の代わりに使用する単位を入力します。

チェックを付けたチャンネルは、DL2100から入力した値に下記演算を行った後、Excelシートに入力されます。  
Excel入力値 = (電圧値 - 係数B) \* 係数A  
「単位」は、必要なら入力してください。

GP-IBアドレス 横軸単位

2 ms QUIT

外部クロックの時の横軸係数 1.0

外部クロックの時の横軸単位 DEG